

学生部長・栄養学科長・教授

高崎 智子

## ■ 学歴

---

1. 1992年 九州大学医学部医学科 卒業

## ■ 学位

---

1. 2001年 博士（医学）

## ■ 研究分野

---

1. 予防医学

## ■ 研究キーワード

---

1. 健康管理
2. 生活習慣
3. がん教育
4. がん検診

## ■ 研究課題

---

1. 健康寿命の延伸を図るため、啓発活動を通じて、学ぶことによる疾病予防を目指す。がん検診に関する地域住民の意識と課題について検討し、がん検診の受診率を高めるための方策等について考察する。
2. 女子大学生の健康維持・増進に向けた支援の効果的な取り組みについて検討する。

## ■ 担当授業科目

---

1. 疾病診断治療学Ⅰ（前期）（栄養学科）必修
2. 臨床基礎医学実習（前期）（栄養学科）必修
3. 病理基礎医学（後期）（栄養学科）必修
4. 疾病診断治療学Ⅱ（後期）（栄養学科）必修
5. 管理栄養士演習Ⅰ（通年）（栄養学科）選択
6. 実践活動（通年）（栄養学科）選択

## ■ 授業を行う上で工夫した事項

---

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

- |    |  |
|----|--|
| 1. | <b>授業科目名【病理基礎医学】</b><br>1年生を対象としており、大学で初めて学ぶ医学講義であるため、医学用語をはじめとし、医学の基礎となる基本的な知識を習得することを目標とした。病気の本質を理解するために、体の中で起きる変化を遺伝子・細胞・組織レベルから学び、疾病の種類や病因、病態との関連へと理解を深めていくように努めた。スライドに図表を多用して視覚的に理解しやすいようにし、授業中には質問をあ |
|----|--|

	<p>てるなど、一方通行の授業にならないよう工夫した。また学生の理解度を測るために、毎回の授業の終わりに確認テストを実施し、次回の授業の始めに理解度の低かった箇所を中心に再度解説して知識の定着を図った。</p>
2.	<p><b>授業科目名【疾病診断治療学Ⅰ】</b></p> <p>管理栄養士として栄養学を学ぶ上で臨床医学の知識は不可欠である。管理栄養士が知っておくべき基礎知識および医学的な考え方について学ぶために、代表的な疾患の成因、症状、診断方法、検査結果、治療方法などの知識を修得することを目標とした。スライドに図表を多用して視覚的に理解しやすいようにし、授業中には質問をあてるなど、一方通行の授業にならないよう工夫した。また学生の理解度を測るために、毎回の授業の終わりに確認テストを実施し、次回の授業の始めに理解度の低かった箇所を中心に再度解説して知識の定着を図った。</p>
3.	<p><b>授業科目名【疾病診断治療学Ⅱ】</b></p> <p>疾病診断治療学Ⅰで学んだ臨床医学的知識を基に、疾病や栄養療法に関する専門知識をさらに深めるとともに、健康増進・疾病予防において管理栄養士が果たすべき役割についての重要性を学ぶことを目標とした。改訂された各種ガイドラインなどについては適宜補足して示し、常に最新の知識を得るよう促した。また実際に社会で問題となっている事例を取り上げ、学んでいる医学内容との関連を具体的に提示することで関心を高めるよう努めた。スライドに図表を多用して視覚的に理解しやすいようにし、授業中には質問をあてるなど、一方通行の授業にならないよう工夫した。また学生の理解度を測るために、毎回の授業の終わりに確認テストを実施し、次回の授業の始めに理解度の低かった箇所を中心に再度解説して知識の定着を図った。</p>
4.	<p><b>授業科目名【臨床基礎医学実習】</b></p> <p>管理栄養士はチーム医療を担う一員である。医療の現場においては対象者の栄養状態や健康状態を把握した上で、栄養管理や指導内容を設定することが重要になってくる。医療現場の実際を理解するために、医療面接・身体診察法・生理検査法等に関する知識を修得できるように実習内容を設定した。血圧脈波検査・腹部エコー検査・骨密度検査・乳がん検診方法等を体験するとともに、高齢化社会を意識して認知機能を調べる検査を組み込んだ。各実習の最初には、臨床医学検査と疾病との関連についての知識を確認するために、講義形式と質疑応答形式による導入を行った。検査を実際に体験するのみならず、グループワーク・事例検討や質疑応答の機会を増やす等、主体的に参加する工夫を行った。実習の終了後には、実習時間内にレポートを作成するよう課し、理解度を確認した。なおレポート作成に際しては、インターネットを利用して情報検索することを促すとともに、参考となるURLを提示し、信頼性のある情報を得る方法について指導した。</p>
5.	<p><b>授業科目名【管理栄養士演習Ⅰ】</b></p> <p>4年生を対象として、「人体の構造と機能および疾病の成り立ち」分野を中心に演習形式による講義を担当した。実際に出題された国家試験問題を中心に解き、解説を行った。解答を導き出す過程や要点をまとめたスライドを作成し、暗記に頼るのではなく理解して考える習慣付けができるようにした。国家試験頻出分野に関しては、類題をくり返し解くことで理解の定着に努めた。</p>
6.	<p><b>授業科目名【実践活動】</b></p> <p>がんの原因の中には生活習慣とかかわるものも多く、予防のためのがん教育が小学校から始まっている。そのような状況を受け、特に大腸がんと乳がんについての「がんの予防と食事との関連」をテーマに、3名の4年生および4名の3年生を指導した。学生の主体性を大切にしながら、資料の調べ方、引用の仕方、レポートの作成方法等について教授し、文献検索等により情報収集・考察し、ス</p>

ライド発表することを指導した。3年生は、10月の大学祭にて、第一生命（株）および本学看護学科吉原ゼミと共同で乳房触診体験ブースを出展し、乳がん検診啓発活動を行った。

また「食と健康」に関して地域住民に啓発活動を行うための本学栄養学科および九州歯科大学口腔保健学科との連携公開講座にて成果を披露する場を得た。参加者とともに「治療食（嚥下食）を調理体験する」講座を開催した。家庭でも簡単に作れる嚥下食を作り、食事が病気の治療を支えることを紹介した。また本公開講座での活動内容を、地域貢献活動交流会にてポスター発表した。大学で学んだ知識や技術をもとに、「食と健康」「口腔保健」の立場から連携して地域住民への情報発信と健康支援を行ったことは、将来就くべき専門職に対するモチベーションを高め、多職種連携によるチーム医療への理解を深めることにつながったと考える。

## ■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	2000年8月～現在に至る	日本人間ドック・予防医療学会	人間ドック認定医 (2005年8月～現在に至る)
2.			人間ドック健診情報管理指導士 (2007年8月～現在に至る)
3.			人間ドック健診専門医 (2012年1月～現在に至る)
4.			人間ドック健診指導医 (2017年4月～現在に至る)
5.			遺伝学的検査アドバイザー (2020年4月～現在に至る)
6.	2006年10月～現在に至る	日本乳がん検診精度管理中央機構	マンモグラフィ読影認定医 (2006年10月～現在に至る)
7.	2010年5月～現在に至る	日本がん検診・診断学会	がん検診認定医 (2012年10月～現在に至る)
8.	2011年4月～現在に至る	日本抗加齢医学会	日本抗加齢医学会専門医 (2020年1月～現在に至る)
9.	2017年4月～現在に至る	肺がんCT検診認定機構	肺がんCT検診認定医 (2017年4月～現在に至る)
10.	2010年4月～現在に至る	日本医師会	日本医師会認定健康スポーツ医 (2011年5月～現在に至る)
11.			日本医師会認定産業医 (2016年9月～現在に至る)
12.			日医生涯教育認定 (2019年12月～現在に至る)
13.			かかりつけ医こころの健康対応力 向上研修修了 (2019年12月～現在に至る)
14.			かかりつけ医認知症対応力向上研

			修了 (2019年12月～現在に至る)
15.			日医かかりつけ医機能研修制度修了 (2024年4月～現在に至る)

## ■ 研究業績等に関する事項 (2024年度)

	発行又は 発表の年月	著書、学術論 文等の名称	単著・ 共著の別	発行所、発表雑 誌等又は発表学 会等の名称	概 要
(著書)					
1.					
(学術論文)					
1.	2025.3	健康管理ツ ールとして の「健康管理 カルテ」を用 いた大学生 への健康支 援－利用状 況と運用に 関する考察 －	共	西南女学院大 学 紀要 2025 Vol.29	① 大学における学生への健康支援の一助となることを目的に、学生自身が健康を意識し管理するツールとして、本学独自の「健康管理カルテ」を作成した。入学生に配布し、その利用状況に関する調査を行った結果、学生の健康記録の保管手段として、また、正しい情報を得る手段として利用されていることがわかった。今後は健康管理カルテの配布に留まらず、継続的に情報発信し、学生自身による健康管理を促す取り組みを進めることが課題である。 ② 共著者名：樋口由貴子、水貝洵子、山田恵、高崎智子、目野郁子 ③ (P47-56)
(翻訳)					
1.					
(その他)					
1.	2025.3	「食と健康」 に関する西 南女学院大 学・九州歯 科大学連携 公開講座～ 治療食（ 嚥下食）の 調理体験～	共	西南女学院大 学・西南女 学院大学短 期大学部地 域貢献活動 報告 2024	① 口腔機能と栄養は密接に関連している。2大学が連携し、2024年11月に「治療食（嚥下食）の調理体験」をテーマに、高校生とその保護者等を対象とした咀嚼や嚥下に関する体験型講座を開催した。本連携公開講座における地域住民への情報発信と健康支援活動について報告した。 ② 共著者名：高崎智子、渡邊和美、黒

					岩かすみ、中村愛奈、邵仁浩、中道敦子、辻澤利行、船原まどか、磯部彩香 ③ (P9-11)
(学会発表)					
1.					

## ■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究					
	研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)	
1.					

(2) 個人研究					
	研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考	
1.					

## ■ 社会における活動

	任 期 期 間 等	団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2020年2月～現在に至る	国家公務員共済組合連合会 新小倉病院	非常勤医師・産業医・ 衛生委員会 副委員長
2.	2022年4月～現在に至る	北九州市食品衛生懇話会	会員（座長）
3.	2024年11月2日	「食と健康」に関する西南女学院大学栄養学科・九州歯科大学口腔保健学科連携公開講座	「治療食（嚥下食）の調理体験」 企画・運営
4.	2025年3月7日	2024年度 地域貢献活動交流会  2024年度 地域懇談会	「治療食（嚥下食）の調理体験」 ポスター発表 地域連携室運営協議会 構成員

## ■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

	任 期 期 間 等	会議・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2021年4月～現在に至る	学校法人西南女学院 将来計画委員会	大学・短期大学部 委員
2.	2021年4月～現在に至る	西南女学院大学・短期大学部 学生部	学生部長

3.	2024年11月～現在に至る	西南女学院大学保健福祉学部栄養学科	栄養学科長
4.	2021年4月～現在に至る	西南女学院大学・短期大学部 大学評議会	構成員
5.	2021年4月～現在に至る	運営会議	構成員
6.	2021年4月～現在に至る	点検評価改善会議	構成員
7.	2021年7月～現在に至る	将来計画検討プロジェクト会議	構成員
8.	2022年10月～現在に至る	教学マネジメント会議	構成員
9.	2023年4月～現在に至る	改革推進グループ会議	構成員
10.	2024年11月～現在に至る	入学試験会議	構成員
11.	2023年6月～現在に至る	教学 IR 推進室	室員
12.	2024年4月～現在に至る	学生総合支援室	室長
13.	2021年4月～現在に至る	地域連携室運営協議会	構成員
14.	2021年4月～現在に至る	学生総合支援室運営連絡協議会	構成員
15.	2021年4月～現在に至る	学生委員会	委員長
16.	2021年4月～現在に至る	就職委員会	委員長
17.	2021年4月～現在に至る	国際交流委員会	委員長
18.	2021年4月～現在に至る	学生個人情報保護委員会	委員
19.	2021年4月～現在に至る	大学キャンパスハラスメント防止・対策委員会	委員
20.	2025年2月13日	2024年度 大学キャンパスハラスメント防止セミナー「大学におけるハラスメントの防止と対策」	座長
21.	2019年4月～現在に至る	栄養学科 学生アドバイザー	アドバイザー
22.	2019年4月～現在に至る	管理栄養士 国家試験対策講座（前期・夏期集中・後期・国試直前）	講師
23.	2024年6月15日	オープンキャンパス 栄養学科模擬授業「自分の体の成分を知ろう～See what you're made of!～」	講師